



計 量 み や ぎ

編集発行
 仙台市太白区長町7-22-23
 宮城県計量検定所内
(社)宮城県計量協会
 TEL 246 2466・FAX 247 1490
 www.keiryo.net/

あけましておめでとうございます
 謹んで初春のお慶びを申し上げます

県民とともに築きたい
 「豊かでやすらぎのある宮城」



宮城県知事
 村 井 嘉 浩

明けましておめでとうございます。皆様には輝かしい希望に満ちた新年を健やかに迎えることとお喜び申し上げます。

昨年は、宮城県出身の荒川静香さんがトリノオリンピックで金メダルを獲得し、私たち県民に大きな夢と感動を与えてくれました。一方、十月の低気圧通過に伴う暴風雨では、漁船の海難事故で多くの尊い命が奪われたほか、住宅や公共施設、農林水産業などに大きな被害が発生しました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災者の皆様に改めてお見舞い申し上げます。

さて、国内外の情勢が激変する中、県では、県民の皆様が希望を持って安心して生活できるみやぎを構築するため、「富県みやぎの実現」安心と活力に満ちた地域社会づくり「人と自然が調和した美しく安全な県土づくり」を基本とした政策に取り組んでまいります。

まずは、本県の経済成長の原動力となる強い産業基盤を築くため、自動車関連産業の誘致、競争力のある産業の育成・集積、県内企業の海外経済活動の支援などに取り組みほか、観光客の誘致により県内の消費需要を高め、産業や経済の活性化を図ってまいります。

次に、誰もが安心して暮らせるみやぎを実現するため、救急医療体制の整備や各種福祉施策などの推進により、福祉サービス水準の更なる向上を図るほか、子育てや女性の就労環境の整備、子どもの能力や創造性を高める教育を進めてまいります。

さらに、経済成長と環境保全が両立する社会を実現するため、地球温暖化対策や廃棄物の再資源化などの環境政策に取り組むほか、地震などの災害に備え、各種施設の整備や情報ネットワークの充実に図るなど、災害に強い宮城県を構築してまいります。

さて、今年三月には、仙台空港アクセス鉄道の開業が予定されており、本県の観光振興や国際戦略を推進する上で大きな強みになるほか、東北全体の発展に大きく寄与するものと期待しております。県民一人一人が、生まれてよかった、育つてよかった、住んでよかったと思える宮城県を県民の皆様とともに築き上げてまいりたいと考えておりますので、皆様方の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

年頭に当たり、皆様方の御健勝と御多幸をお祈り申し上げ、あいさついたします。

年頭のご挨拶



会長 鍋島 綾雄

明けましておめでとございます。会員の皆様方にはご家族お揃いで目度く新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

昨年はいざなぎ景気を超えて史上最長に景気更新と騒がれましたが、それは一部大手企業の輸出中心の好況であり、東京・名古屋に偏在した好況でありまして一般庶民には実感の乏しいものであります。特に地方にはその恩恵が及ばず、夕張市の例に見るように財政再建団体に転落した自治体も出る始末でありました。

宮城県の財政状況も前知事の時代から大変厳しい状態であると聞いております。幸い当協会の顧問をお願いしていた村井先生が知事に当選され、宮城県を活力ある元気な県にしようと張り切っております。大いに期待したいと思っております。

翻って当協会としましては、昨年六月二日江陽ランドホテルで知事・市長・行政室長を迎えて設立五十五周年を盛大に祝うことが出来、周囲から流石は宮城県計量協会と賞賛の言葉を頂きました。会員の皆様のおかげでございます。

あらためて厚くお礼申し上げます。さて、計量行政審議会での計量法の見直し作業も最終段階を迎えて今年には改正が実現するものと思われれます。

その中でも計量士の地位向上と資質の向上が重要な問題として取り上げられております。宮城県の協会にも計量士の資格を持った職員が六名他県にも例がないも居ります。この方々にもしつかりと研鑽を重ねて頂き、法の改正と共に協会の活動範囲を広げて行かねばなりません。そういう意味でも今年は大変重要な節目の年になるものと考えております。

会員の皆様方に置かれましても今後の協会活動に対して一層のご理解とご支援を賜りますようお願いを申し上げます。有難うございました。



仙台市経済局 産業政策部経済企画課

課長 木村 智

皆様には健やかな新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、日頃から本市の計量行政を始め市政各般にわたりご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

宮城県計量協会におかれましては、平成十四年度から本市指定定期検査機関として市内の円滑な計量行政の推進を支えていただいております。関係各位のご尽力に改めまして感謝申し上げます。

現在、計量制度の見直しが進められているなど、計量を取り巻く環境は変化しておりますが、健全な産業活動や市民生活の安全安心にとって適正な計量が必要であることに変わることはありません。その意味で、貴協会が有する知識や経験に寄せられる期待は今後一層高まるものと存じます。

折しも、新年は、昨年の法人化五〇周年を踏まえ、新たな発展の歴史をスタートされる大切な一年になるものと拝察申し上げます。

本市では十八・十九年度、全国特定市計量行政協議会会長の任にも取組んでおり、これまでに以上のご指導、連携をお願い申し上げます。

最後になりますが、新年における皆様方の益々のご健勝とご繁栄を心より祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



あけましておめでとうございませう



Table listing board members and staff with their names, titles, and affiliations.

平成十八年度 東北・北海道計量大会開催

十月十一日(水) 福島市飯坂「摺上亭 大鳥」

東北・北海道計量大会は、福島県飯坂町で開催された。定刻に始まり開会宣言の後、平成十七年度の会員物故十一名に黙祷を捧げた後、長澤東北六県北海道計量協会連合会長(社福島県計量協会会長)より歓迎の挨拶があり、続いて九名の計量功労者に対して表彰状と記念品がそれぞれ贈呈された。宮城県から、伊達啓氏が表彰され、受賞者を代表して、北海道の市原氏から謝辞があり、表彰式を終了した。次に大会記念事業として、福島県社会福祉協議会、知的障害施設「デジタルヘルスメーター」を寄贈し、このあと



寄贈先から長澤東北六県北海道計量協会連合会長に感謝状が贈呈された。続いて、福島市計量管理協会紺野会員より、「くらしを守る確かな基準：計量・計測」地球環境と生活を守り、はかるとは全ての基本です」をスローガンに掲げ、大会宣言とした。次に来賓の祝辞として、経済産業省産業技術環境局知的基盤課計量行政室長・福島県知事代理(出納長)・福島市長(代理で助役)・社日本計量振興協会会長より、連合会の発展と計量業界の躍進を祈念する祝辞が述べられ、来賓・招待者の紹介、祝電の披露ののち、社福島県計量協会石原副会長の挨拶で大会を閉会した。

第五十五次東北六県北海道計量協会連合会総会

第五十五次東北六県北海道計量協会連合会総会は、計量大会に引き続き、長澤連合会長が議長に指名されたのち直ちに議事に入った。始めに前年度総会の報告を、前当番県であった社計量計測技術センター会長より報告があった。

「各道県からの提出議題」

- 《議題一》計量制度検討小委員会報告(案)における新たな方向性について
計量器の検定・検査等に係る規制 (北海道)
- 《議題二》指定検査機関制度と協会活性化策について (青森県)
- 《議題三》計量記念日関連事業について (宮城県)
- 《議題四》一般計量士の社会的地位を高める為にキャンペーン(要望) (秋田県)
- 《議題五》連合会総会次期開催地について (福島県)



* 議題一について*

数内計量行政室長から回答があり、指定製造事業者等が行った修理について、不合格品の対応に區別を付けているのは、製造管理技術によって判断している。従来、自己が製造した製品に対する修理品についてのみ自主検査を認めているが、他社製品を修理する場合に、例えば型式が同じであれば修理しても良いなどの意見がある。指定製造事業者とは、民間に指定できるように器差・構造のみ等、現行の規制の下で認可できる事業者であっても良いのではないかと。指定製造事業者が修理を関連する修理事業者に修理を行なわせた場合は、指定製造事業者が自己の製品を修理したものとは做さない事などが述べられ、必要最小限の規制緩和・計量器使用者の資質の向上等、計量制度をあらゆる社会のニーズに対応するべく、その重要性と運営に鑑み、具体的展望に向けて随時識者の意見を取り入れ、且つ早急な判断が求められる旨の回答があった。

* 議題二について*

社日本計量振興協会飯塚幸三会長が、次のように述べられた。指定定期検査機関制度については、計量法第二十条に基づき全国的に展開されており、同制度の指定や郵政公社計量管理業務の受託さらにJCS校正業務等の事業規模を拡大し、その上で計量協会会員の利益を確保し、ひいては会員の拡充と計量士等人材の育成に努め、これら計量制度に基づく事業の積極的な運用の展開が望まれる旨の回答があった。

* 議題三について*

数内計量行政室長より、計量記念日関連事業で、何でもはかつてみようコンテストの募集を円滑にするためには、国から県・市への文書での依頼が望ましいとの提案に対し、経済産業省や文部科学省からの通達は現状では困難であり、また教科以外の教育活動の力にキリキラムは各学校に委ねられており、それら関連事業の取り次ぎは担当教諭の熱意次第であると思われる。この様な状況をどう乗り越えて募集の協力を頂くか各協会が苦慮しているところであるが、一般論として国からの依頼文については、行政室独自に進めてから文部省に話を持って行きたい。

* 議題四について*

飯塚会長より、一般計量士のPRキャンペーンを繰り広げるためにはコスト面で膨大な金額が掛かることから現実には困難である。このことについて、日計振のホームページ上において、計量士に関するページを掲載しているので活用してもらいたい。また計量士の資質向上のために随時講習会も開催されているので、人材育成の一環として役立ててほしい旨の回答があった。

* 議題五について*

次期計量大会及び第五十六次連合会総会の開催地についての提案があり、次期開催地を北海道で平成十九年度に実施することを承認し、次回当番県の北海道へ大会旗を引き継ぎ十五時三十分総会終了後、「計量制度の見直しの概況」と題して、計量行政室長、数内雅幸氏の講演が行なわれた。

ひろば

計量記念日事業

・ふれあいひろば



今年も、十一月一日の計量記念日にちなんで、子供達を対象に給を一ーグラムピツタリ試し計量に挑戦してもらいました。ピツタリ賞には、学用品セット等の景品をくばりました。

今年は、八木山動物公園に場所を移し子供さん達を対象とした、平成十八年度「二〇〇六みやぎ計量のひろば」実行委員会主催、宮城県、仙台市、(社)宮城県計量協会共催で、十月二十九日(日)午前十時から午後二時まで開催された。

午前十時、ＴＢＣラジオパーソナリティ奥川陽子さんの司会により開会し、鍋島会長の挨拶に続いて、田中雄一検定所長のお祝いの言葉の後、仙台市内の



計量記念日ポスター表彰

仙台市内の小学生の子供さんから応募があり、次の方々が入賞されました。



- 優秀賞** (社)日本計量振興協会会長賞
仙台市立長町南小学校
六年 西条志歩さん
- 会長賞** (社)宮城県計量協会会長賞
仙台市立長町南小学校
六年 奥山晃平さん
- 入選**
仙台市立鹿野小学校
六年 佐藤 澯さん
六年 中尾優花さん
仙台市立寺岡小学校
五年 大根田匠さん
仙台市立荒町小学校
四年 大沼優希さん
- 特別賞**
仙台市立西中田小学校
二年 宮田彩未さん

111gを当てよう



今年も、十一月一日の計量記念日にちなんで、子供達を対象に給を一ーグラムピツタリ試し計量に挑戦してもらいました。ピツタリ賞には、学用品セット等の景品をくばりました。



2006 イベント特集

平成18年10月29日(日) 10:00~14:00

重さ・長さ当てコーナー



八木山動物公園での、重さ・長さ当てコーナーでは、カメさん・ヤギさんの重さ当て、ヘビさんの長さ当てコーナーを設けて子供達にふれさせたり、実際に計量の体験をして貰ったりで、大変な人気でありました。

重さ・長さ当て投票



ヤギさん・カメさんは何キログラムかな？
ヘビさんの長さは何メートルかな？
ピッタリ当てた方には豪華な景品がおくられました。

テーマ「動物とふれあい」コーナー



ヤギさん・カメさん・ヘビさんのふれあいコーナーでは、子供達は、おっかなびっくりで、さわった感触を楽しんでおりました。



計量の

平成十八年度 '06動物と計量



小学生から応募された「記念日ポスター」の入賞者表彰式が行なわれ、寺田宮城県産業経済部産業立地推進課長、木村仙台市経済局産業政策部経済企画課長、田中宮城県計量検定所長、鍋島会長、千葉副会長、記念日ポスターで宮城県計量協会会長を受賞された奥山晃平さんの六名の方々のテープカットにより、イベントが開催された。

各部会合同 優良事業所視察・研修会



山形県新庄市にある(株)ヨコタ東北を、去る九月二十一〜二十二日の二日間、参加者二十一名にて視察

(株)ヨコタ東北は、プラスチック製各種食品容器の開発から、生産、販売、使用済み容器の回収、そしてリサイクルに至る全ての段階において環境対策を進めているメーカーである。

平成十二年度から施行された、容器包装リサイクル法に対応するため、平成八年から二十一世紀の循環型社会への貢献を目指しつつ開発を進め、ゴミの減量とリサイクルという二つの目的を達成する機能を持つがせる容器「P&Pリサイクルシステム」を完成させた。これは、P&Pリパックと称するトレイには、はがせるフィルムがラミネートされており、使い終わったらトレイに付着した汚れをフィルムをはがすだけで取り除くことができ、誰にでも簡単にリサイクルができるものである。

また、洗う必要もないので大切な水を汚染することもなく、リサイクルされたトレイは原料として再生され、いわゆる「リターナブルトレイ」として蘇る容器である。

工場内は見学コースが整然と設けられており、原料から製品化までの各工程の全面をガラス越しに上部から眺めることができ、大変解りやすくなるようになっていた。

各種製品を利用したら使い捨ての「ワンウェイトレイ」が従来からのシステムだけに、「企業レベルでは何ができるのかを考えてきた」と言う。

また、限りある資源を大切に将来、子供達のために何ができるのかを目的とした環境教育の「コミュニケーション」のできる場として、「ヨコタ東北リサイクル・アメニティセンター」を創設し、見学者を迎えて共に自然環境を考えているとのことである。

同日、江戸時代からの酒造り方式とその道具類、世界各地の稲株、米づくりに関連資料の展示館を所有している「出羽ノ雪酒造」を見学した。そして湯野温泉に向かい、その温泉街のなかでも一番海に近く眼下に日本海の大パノラマを望め、さらにサンセットビューを楽しめた宿、「愉海亭みやじま」にて日頃の労を癒した。

翌日、曹洞宗の三大祈禱寺と言われ、また人面魚などで知られている「善玉寺」を参拝し、そして「羽黒山五重塔」の参道を散策して二日間好天に恵まれた視察日程を終えて、無事午後五時帰郷しました。



2006計量記念日全国大会開催

経済産業省・計量記念組織委員会が主催する、平成十八年度計量記念日全国大会が十一月一日、東京・虎ノ門パストラルで全国から計量関係三十四団体と社日本計量振興協会の協賛五十九の計量関係団体の協力のもと開催された。

第一部の計量記念式典では、計量関係功労者として計量の発達に貢献のあつた方々、特別計量関係貢献者など二十一名が経済産業大臣表彰を受けられた。

第二部記念行事では、昨年から実施した小学生の計量に関する理解の向上、理科教育の推進をはかることを目的に今年も何でもはかつてみよう「コンテスト」の募集を行い全国より五十点の応募の中から最優秀作品二点、優秀作品二点が表彰された。

最優秀作品は、神奈川県小学校三年生の「家ぞくの何でもそくてい」身の周りにはたくさん測る物があること、測り比べることで家族のことがよく理解できることに気が付いた。作品は、夏休みの中の二十四日間、コップに入る水の量・かばんの重さ・体重・プールに潜っていられる時間・算数五十問テストにかかった時間・ブリッジをしていられる時間・上体そらしなど、いろいろなもの・種類をはかり、はかったものを父親や妹と比べ、日記形式で写真、感想や解ったこと等をま



とめたものである。優秀作品二点は、「食べものを、にたり・やいたりすると、重さや長さはどう変わるかはかってみました」といろいろなもののおもさを同じ大きさではかるうゝ等地道な作業を根気よくやり遂げたことが評価された。最優秀、優秀作品は会場ロビーに展示された。

また、計量啓発標語も全国から募集し約一、七四一点の応募の中から最優秀作品二点、優秀作品二点、佳作十数点の方々が表彰された。

特別講演では、「最近の画像診断CT、MRIによる診断の実際」と題し、(株)日立メデイコマーケティング統括本部企画部横内久猛氏が講演された。

最近の医療に関する新聞やTVの報道は、国民の健康志向の高まりに応えたものでありその中で画像診断に関するトピックス等紹介された。

最後に、安全が最重要課題であり、医療機器の開発方向と、そのために関連する国内外の法規制、特に我が国の規制についての話もされた。

第三部レセプションでは、全国から参加された方々との情報交換等が行われ賑やかなレセプションとなった。



会 社 紹 介

〔経営理念〕

株式会社旭商会仙台店は、顧客の期待に誠実に応え、全社員の幸福を追求し、国際的視野を持ち、社会の進歩繁栄に貢献し、会社の発展を目指します。

創立以来「試験、研究機関に奉仕する専門商社」として、宮城県を基盤に、東北4県をエリアにて、5つの社訓 1.誠実 1.努力 1.責任 1.協力 1.健康 を基本精神に努力している企業です。

〔会社概要〕

会 社 名：株式会社旭商会仙台店
本 社：〒980-0011仙台市青葉区上杉1-9-38
設 立：昭和34年8月
代 表 者：和田岑生
従 業 員 数：30名
沿 革：昭和34年8月株式会社旭商会仙台支店を設立。

昭和37年12月商号を株式会社旭商会仙台店と変更。
昭和47年8月建設業許可を取得し、同年10月現在の
上杉に新社屋落成、移転する。
中小企業では早期の平成12年2月ISO9002認証取得、
平成15年2月ISO9001:2000更新し現在に至る。

取 扱 品 目：次の機器の販売、工事(宮城県知事認可)、修理サービス
等を行います。



第1営業部

測量機器・土木材料試験器・材料試験器・度量衡機器・CADシステム・計測システム・環境計測機器、学校教材、教育設備・測量機器レンタル・RI試験器

第2営業部

真空機器・電子工業計測機器・データ処理装置・光学測定器・品質管理機器・分析化学機器・臨床医用機器・理化学機器・電子工業計測機器・工業プロセス、計測器、試験・研究設備

第3営業部

土木計測器・気象観測機器・地震観測装置・河川観測装置・制御用地震計測システム・石炭火力発電所石炭棚卸し指導・電気通信工事

サービス部

測量機械器具修理及び修理部品の販売



第28回

計量士(計量協会)計量士部会

東北地区協議会

第二十八回計量士、計量協会計量士部会は、宮城県当番により、十二月八日(金)メルパルクSENDAIにおいて、出席者十九名により開催された。

来賓として、出席戴いた宮城県計量検定所長代理・技術次長 古川隆氏挨拶、続いて(社)日本計量振興協会、印南武雄常務理事挨拶の後東北地区から出席された(社)青森県・(社)計量計測センター・(社)秋田県・(社)山形県・福島県計量士会の紹介があり、(社)宮城県計量協会武田専務理事(司)会により、(社)宮城県計量協会、計量士部会長平野節夫氏の議長により協議会が開催された。各県より提案された議題はつぎのとおりであった。

議題一 計量制度の見直しと計量士の活用について (青森県)

議題二 日本郵政公社の検査について (福島県)

議題三 計量士の資質、技術の向上と業務拡大 (山形県)

議題四 計量器検査時における軽微な修理及びサービス等について (山形県)

議題五 上皿自動はかりに表示する刻印及び電子式はかりの種類揭示について (秋田県)

議題六 計量士部会の在り方について (宮城県)

これらの議題について各県より意見交換がなされ、宮城県から提案された「計量士部会の在り方について」の議題では色々意見が出されたことから、後日各県からの意見を取りまとめ決定することとした。

また、印南常務理事から計量制度見直しに関する情報等について、各議題に関連して説明がなされた。

次回当番県を秋田県とするこ

とで満場一致のもと、閉会した。



宮城県計量検定所

からのお知らせ

当所は、正確な計量器等の供給、適正な計量の実施、計量の基礎となる基準器の供給等を主な業務としております。

平成十八年度の立入検査の中間結果についてお知らせします。

商品量目検査の結果は、検査件数十七件、検査個数五百五十七個のうち量目不足七十一個で不適正率は十二・七％でした。量目不足の主な原因は、計量時における風袋引き等の設定ミスによるものでした。風袋引き等を正しく設定すれば量目不足の大部分は防げるものでした。

特定計量器の検査結果は、検査件数二十三件、検査個数百三十三

お気に入り紹介

寒さが厳しくなるこの時期に、温かい物が食べたくなりますが、温かいだけでは物足りない…そんな時には、ちょっと辛みがあるラーメンの紹介です。

仙台に数ある担々麺の中でも、今回紹介するのは、富谷にある『桃源花(トウゲンカ)』です。バイパスを北上すると黄色い看板で見たことがあるかもしれません。

スープとラー油が絡み合って、麺と一緒に食べる…これこそ旨味の中の辛さです。

是非、ここの担々麺を食べて寒さを飛ばしましょう。

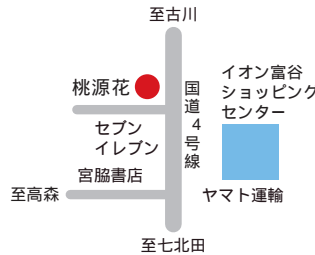
辛子ニララーメン



黒ごま担々麺

桃源花

〔場 所〕黒川郡富谷町鷹乃社4-3-33
TEL 022-358-8210
〔営業時間〕11:00~22:30
〔定休日〕無休



個、うち有効期間切れ等不適正個数三個、不適正率は二・三％でした。また、指導・勧告等を行った事業者は十件でした。不適正計量器の主な原因は、有効期間の認識不足によるものでした。

平成十九年度
「指定定期検査期間
検査実施区域」
計量法第十九条(定期検査)及び第二十条(指定定期検査期間)に基づく、仙台市の定期検査は、次の二区です。
大型・小型はかり(予定)
●青葉区 四月、八月
●太白区 九月、十一月

平成十九年度 「特定計量器代検査 実施区域」

計量法第十九条(定期検査)及び第二十五条(定期検査に代わる計量士による検査)による検査区域は下記のとおりです。

代検査実施区域

石巻市(大型はかりについては旧石巻市のみ)・登米市・栗原市・塩釜市・多賀城市・黒川郡(富谷町・大和町・大郷町・大衡村)・宮城県利府町・松島町・七ヶ浜町)・刈田郡蔵王町・七ヶ宿町)・柴田郡柴田町・大河原町・村田町・川崎町)

お知らせ

計量協会各分会 合同研修会の開催

今回は、昨年五月に「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」が成立、公布され、平成二十一年五月までに裁判員制度がスタートすることになりますが、この新制度の概要等について、裁判所の見学を取り入れながらの説明会開催を予定しております。(参加費無料)

【期日】

平成十九年一月二十三日(火)
午後一時三十分~三時三十分

【場所】

仙台市青葉区片平一丁目六一
仙台地方裁判所

【研修内容】

「評議」の映画上映後、裁判員制度説明
講師 仙台地方裁判所事務局
総務課長 北村洋一氏

【参加申込】

協会事務局に一月十八日まで
集合場所 仙台地方裁判所
一階フロアー

* 駐車場がないので交通機関をご利用下さい。

編集後記

昨年を振り返ると思い出す出来事がウラ金、ヤラセ、汚職、イジメ、虐待で関係する団体が、中央政府、地方自治体、学校、家庭と国民全員が権力、暴力の中に日常茶飯事におかれていた事でした。原因を考えるに、改革の名のもとに国民を「私」した劇場政治といわれる負の遺産による将来に対する社会不安が不安を増長させた結果が生んだものかもしれません。

米沢藩主上杉鷹山は藩主の座を譲るときには、「伝国の辞」を与え、「人民は国家に属するもの、君(藩主)は国家、人民のために役立つものであって、いやしくも君主は国家、人民を「私」すべきものではないを教えました。

美しい国づくりを目標にした新君(首相)には国家、人民のために役立ってほしいものです。

さて、昨年は(社)宮城県計量協会設立五十五周年の式典を六月二日に江陽ランドホテルにおいて、宮城県知事、仙台市長、計量行政室長などの来賓及び会員、協会関係者を含め百五十名の出席を得て盛大に挙行されました。

また、計量記念日事業の「計量のひろば」を初めての試みとして、八木山動物公園で行い、快晴に恵まれ動物のふれあいコーナーでは大人も子供達にも人気を得て盛会に終了することができました。

これも一重に会員皆様方のご協力の賜と感謝申し上げます。今後とも会員の皆様の一層のご協力をお願い致します。

編集委員長 加藤